

# 長畝ふるさと通信



【2026年4月号】

## ■ 不安しかない令和8年産米本格始動

7年産米の豊作と需要低迷のダブルパンチで米価が下落基調にあります。4月には10週連続の値下がりです。5kg3,883円まで下がったとの報道もありました。実際にはもっと安い商品が売れているのだと推察します。流通業者は在庫が抱えきれなくなり赤字放出(損切り)が始まって需給バランスとは関係なく米価が下落しています。このまま価格が低迷し続ければ8年産米の新米価格も想定以上に安くなってしまいます。一方でイラン情勢は停滞し、原油価格の高騰は様々な分野に影響を及ぼし、あらゆる物価がまた上がりだしています。「やっぱりコメだけは世間様の常識と違うのか・・・」と嘆き節。稲作だって農業機械を動かす軽油価格は前年比20%を超えています。人件費をはじめあらゆる資材が高騰しています。でもコメだけは高いと国民の理解を得られないのはどうしてでしょう。



## ■ 食糧システム法施行

4月1日に施行されたこの法は「高騰する生産コストを価格に反映し、持続的な食糧供給を確保する」ための法律で、同法に基づいて算出されたコメの取引価格は5kg 2,811円だそうで、小売価格は3,500円を想定しているらしい。ここで示されているコメとはどういうコメなのか

定義はなく公定価格ではないそうですが、「価格には関与しない」という国の方針は転換されたのでしょうか。3月に8年産米の最低保証価格23,000円を発表すると公言していたJAも、現状から「出し惜しみ」したらしく、未だにその発表はされていません。

## ■ 新定番とは？

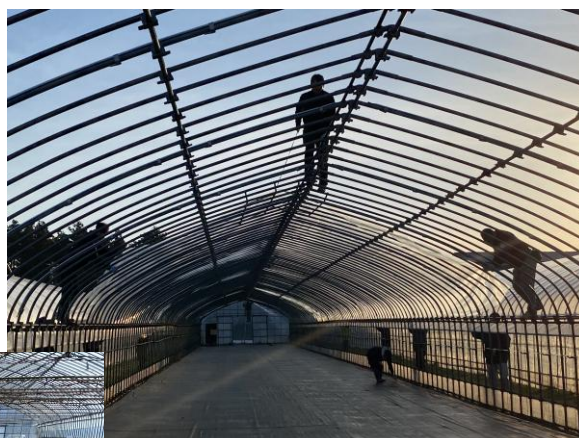
最近やたらとテレビのCMにサトウのごはんの新製品「新定番」が流れています。この商品は単一原料米ではなく「ブレンド米」です。パック米飯大手の戦略ですからそれなりのマーケティングをしてのことでしょう。これからの消費者のニーズは「ブレンド米」で、もはや「ブランド米」ではないと……。実際食べたことがないので軽々には言えませんが、なぜか寂しい。

今年の田植えは例年より一週間近く早い、4月25日から始めました。今年の夏も異常気象を想定しての対策です。五里霧中ではありますが、今やれることをしっかりやるだけです。



## ■ 今年は もう1俵 取る作戦

「米価が不安定なら収量を上げましょう」これが今年の合言葉です。異常気象を言い訳にはしません。一人一人が栽培管理を徹底します。どうやったらあと1俵獲れるか真剣に考えます……当たり前のことですがどこかおざなりになっていました。



育苗ハウスのビニールも張り替え、初期生育に欠かせない肥料も見直しました。6月にはライスセンターの改修も大々的に行います。経費の掛かることばかりですが「投資なくして成長なし」と思い、やれることをやるつもりです。

## ■ 祭りに強力外国人助っ人現る

桜の満開がピークを過ぎた4月15日、晴れ。今年の祭りは強力外人助っ人が来てくれました。昨年の今頃、ワーホリで組合で仕事をしてくれたニュージーランド出身のジョーダン君が従兄弟2人を連れてわざわざ来島、祭りに参加してくれました。昨年の「ドラムフェスティバル」が最高に気に入って従兄弟にも見せたかったんだ」そうで・・・二人とも元ラガーマンで一人は身長2m弱、もう一人は体重140kgの巨漢兄弟です。早朝6時から夜中の12時まで太鼓を担いでバカほど酒飲んで祭りを盛り上げてくれました。言葉はもちろん通じませんが、酒の力で十分なコミュニケーションがとれていました。休憩時間に行われた腕相撲は万国共通で酔うほどにエスカレートするようで、日本チームも果敢に挑みましたが全敗でした(フィジカルが段違いでした)。下写真の日本人が集落一の巨漢(100kg)ですが彼らに囲まれると小さく見える



「ニュージーランドにもこれと似たような祭りがあるけど、佐渡はクレージーだ。是非、来年も来たいよ。今は1秒でも早く布団に入って眠りたい」とは祭り終了の談。実際のところ我が保存会だけでは年齢的にも人数的にもキツイので、思わぬ外人助っ人のおかげで何とか祭りができたってとろろです。来年もお待ちしております。

